

国際的なものの見方・考え方ができる、
広い視野を持った人材を養成します。

国際関係法学科では、国際関係法を基礎とし、特定なものにこだわらず、国際的なものの見方や考え方ができる広い視野をもった人材を育成することを目的としています。また、国際化が進む社会に対応するために、異なる考え方を持つ人々と意見を交換・共有し、社会のさまざまな問題の解決に共同で取り組む能力も身に付けていきます。

カリキュラムは隣接分野である政治学・国際関係関連の科目の履修を幅広く認めています。複数の学問領域の視点から特定の問題を検討し総合的な問題解決ができる能力を養うことがねらいです。さらに、模擬国際裁判や国際協力・ボランティア論、インターナショナル・サービス・ラーニングなど、机上だけでなく、現場での実践力を磨く科目も用意しています。

教育の方針

■ アドミッション・ポリシー

[入学者受入方針]

入学までに形成される個性と多様性を発展させようことを重視し、現代社会に生じる法的・政治的問題やその解決を思索する意欲・能力を有したものを受け入れる

■ カリキュラム・ポリシー [教育課程の編成方針]

- 1 専門科目への円滑な移行を可能にする入門科目の導入
- 2 専門学智の習得を可能にする一貫した講義の配置
- 3 法学・政治学における専門的学智と識見を修めるための体系的な高度な講義
- 4 専門学智と批判的思考力を体得するための双方向的の少数人数ゼミナール形式の教育
- 5 学生の多様な意欲と価値観に応じた教育を可能にする専門演習
- 6 国際社会の多方面で活躍することができるための社会で生きる力を養う教育

■ ディプロマ・ポリシー

[卒業認定・学位授与に関する方針]

- 1 法学及び政治学の専門学智を基礎に、多様な価値観の理解と、批判的の思惟の力を身につけている
- 2 変容する国際社会の秩序構成に寄与できる識見を有する
- 3 国際化に起因する諸現象を法的・政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を具えている
- 4 多様な文化を受容し、異文化交流に貢献することができる

国際関係法学科カリキュラム

		PICK UP 4 1P		PICK UP 2 1P		PICK UP 3 1P	
専攻科目	導入科目	●法律学の基礎 ●民法入門 ●刑事法入門 ●手続法入門					
	国際関係科目	●国際政治学I ●国際法I ●国際法II ●国際商事仲裁 ●国際組織法 ●国際紛争解決法 ●国際私法 ●国際民事手続法 ●国際取引法					
	発展科目	●国際人権法 ●国際環境法 ●海洋法 ●国際情報通信法 ●外国法I ●外国法II ●地域共同体法 ●国際知的財産法 ●国際労働法 ●国際経済法 ●模擬国際裁判					
	政治学科目	●政治学原論 ●政治史 ●地域研究II(アメリカ) ●地方自治論		●外交史 ●日本政治論 ●地域研究III(ヨーロッパ) ●模擬外交交渉		●国際政治経済論 ●比較政治学 ●社会科学総合講座 ●人権論 ●地域研究総論 ●政治思想史 ●平和研究 ●地域研究I(アジア太平洋) ●行政学	
	基本法律科目	●憲法I(総論・統治機構) ●民法(契約法) ●民事手続法I(判決手続) ●企業金融法		●憲法II(基本的人権) ●民法(不法行為等) ●刑事手続法(刑事訴訟法) ●刑事政策		●民法(総則) ●刑法I(総論) ●行政法総論 ●民法(物権) ●刑法II(各論) ●行政経済法 ●民法(債権総論) ●司法制度論 ●企業組織法	
	基礎・発展法律科目	●個別的労働関係法 ●企業取引法I(商法総則) ●法哲学 ●知的財産法		●団体的労働関係法 ●企業取引法II(商取引法) ●法制史 ●民事手続法III(倒産処理法)		●社会保障法 ●企業取引法III(保険法・海商法) ●法社会学 ●民事手続法II(民事執行・保全法) ●経済法 ●金融法I ●地方自治法 ●民法(親族・相続) ●金融法II ●税法	
専門語学科目	●英書講読入門 ●専門外国語I(ドイツ・フランス) ●専門外国語II(ロシア)		●英書講読I(法律) ●専門外国語III(中国・韓国)		●英書講読II(政治・国際関係) ●専門外国語III(中国・韓国) ●英書講読III(法律) ●海外外国語研修I ●英書講読IV(政治・国際関係) ●海外外国語研修II		
演習科目	●基礎演習 ●専門演習I ●専門演習II ●専門演習III						
関連科目	「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」などの経済学科目、「経営学」や「会計学」などの商学部科目に限らず、その他の学部学科の専攻科目から数多くの科目を選択できます。						

共通科目	キリスト教	人文科学	社会科学	自然科学	スポーツ科学	外国語
●キリスト教 ●キリスト教人間学 など	●西南学院史 ●日本史学 ●西洋史学 ●西文学 ●中国文学 ●心理学 など	●哲学 ●倫理学 ●東洋史学 ●美術史 ●日本文学 ●音楽史	●法学 ●社会学 ●国際関係論 ●人権問題論 ●経済学 ●政治学 ●地理学概論 ●同和問題論	●数学入門 ●物理学入門 ●地球科学 ●生命科学 ●環境科学 ●情報数学 ●生活の化学 ●環境地理 ●自然科学概論	●スポーツ理論 ●スポーツ実習 など	●英語 ●フランス語 ●ドイツ語 ●中国語 ●韓国語 ●イタリア語 など

※○印は必修

教員プロフィール

<p>岩間 徹 教授 国際法(特に地球環境をめぐる様々な法律問題)</p> <p>古賀 衛 教授 海洋資源と船舶に対する管轄権、国際紛争の解決手続</p>	<p>エヴァーニイB.コヴァーギン 教授 国際政治経済論、太平洋における経済関係、19世紀後のロシア史</p> <p>仙石 学 教授 政治学(特に比較政治経済論、福祉国家論、中東欧比較政治)</p>	<p>多田 望 教授 国際取引法、国際民事証拠共助、国際裁判管轄権、貿易金融EDI、国際原子力損害賠償</p> <p>釜谷 真史 准教授 国際私法(特に外国判決承認執行、外人法)</p>	<p>小寺 智史 准教授 国際法・国際経済法(特に国家の Kategorization と異なる待遇)</p> <p>田村 元彦 准教授 政治学(特に「ローカルにおける公共性」の研究)</p>	<p>富田 麻理 准教授 国際法(特に人権条約の履行確保)</p>
---	---	---	--	--

学科の特色

幅広く学べる国際関係法学の科目群

基本となる国際法に加えて、国際人権法や国際経済法、国際環境法などの公法領域、国際私法や国際取引法、国際民事手続法などの私法領域、および国際政治学や外国法など、国際関係法の周辺領域に関して幅広い講義科目を提供しています。

国際化に対応するための英語力を養成

法学・政治学の専門分野において、英語での討論や論文作成を可能にするために、英書講読のクラスを設けています。また、海外での語学研修を卒業単位に換算できる海外外国語研修の制度もあり学生に好評です。

将来の進路を踏まえた科目履修が可能

外交官や国際機関の職員として働くために必須となる科目を提供するのみならず、ビジネスの現場で国際的に活動したいと考えている学生や、公務員として働くことを希望する学生に対応したカリキュラムも提供しています。将来の進路を踏まえた科目履修が可能です。

PICK UP CURRICULUM

① 模擬国際裁判

- 法の争点を含む仮定的な紛争を想定し、シミュレーションで裁判を行う
- 実際に起こった国際紛争を題材に、実際の事例にて模擬裁判を行う
- 国際問題に国際法を適用する際に必要な手続を理解し、国際法を根拠に主張を展開できるようにする

② 国際法Ⅱ

- 国際法の基本的構造と特徴を体系的に理解し、国際社会において実際に発生する事例を法的に処理する能力を養う
- 国際法の各論を学ぶとともに、国際裁判および、国際法の国内適用が問題となった国内裁判の事例研究を行う

③ 国際私法

- 日本で外国的要素を含んだ(民法、商法、民訴法など)私法トラブルが生じた場合、どこの国の法(準拠法)を適用すべきかを定める「国際私法」の基礎的・全般的知識を修得し、筋道立てて説明できる能力を養う
- 国際私法とは何かという基礎理論を押さえた上で、準拠法の決定プロセスの枠組みを学び(総論)、婚姻、契約などの準拠法選択ルール(各論)を学ぶ
- 近時の裁判例など具体例をおりまぜて説明する

④ 国際政治学

- 国際政治学における主要な理論の概観を通して、国際政治を含む広い意味での国際関係を、自分の視点で見極める力を養う
- 「愛国心」や「テロとの戦い」といった国際関係の諸問題について疑問を感じている人は、自分の認識と他者の認識の違いを理解したうえで、自分の考えを再確認する

STUDENT'S VOICE

法の知識と語学力の双方を高めていきたい。

法は、自分や人のため、世の中のために役立つもの。そう考えた私は、法学部を志望。現在は国内の法律(六法など)を学んでいます。西南学院大学の法学部では多くの外国語授業を履修でき、語学力を伸ばしやすい環境が整っています。私は大学入学当初から英語もしっかり学びたいと思っていましたので、この環境はとても恵まれていると感じています。法と語学という2つの分野を並行して学ぶことで、グローバルな物の捉え方を養い、将来は、国際的な組織や機関で働きたいと思っています。



原田 孝太郎さん
法学部国際関係法学科2年
(福岡県・山門高等学校出身)

わたしの受験対策

西南学院大学の試験は、他の大学に比べて凝った問題が少ないと感じました。だから私は、受験勉強では国語や社会科をある程度カバーし、配点の高い英語に時間を多く費やしました。日々の積み重ねを忘れず、過去問題に早めに取り組むことが大事。出題傾向をつかむことが、受験勉強を進める一つの大きなポイントだと思います。

STUDENT'S VOICE

国内法だけでなく国際法も学ぶことで視野が広がりました。

本学科を選んだのは、法律を通して世界を見ることで、国際関係を今までとは違う角度から学ぶことができると思ったからです。一番力を入れているゼミ活動では、国際取引法や国際裁判管轄について勉強しています。国内法だけでなく、国際法系の科目も多く学べるので、視野が広がったと思います。おすすめの授業は、「国際取引法」。今では当たり前に行われていますが、国際取引の仕組みや関係に関する法律を学ぶことができます。将来は、企画や運営などに関わる仕事をしたいと思っています。



久保園 祥子さん
法学部国際関係法学科4年
(福岡県・筑紫高等学校出身)

わたしの時間割

※時間割は3年次後期のものです。

	月	火	水	木	金
1					
2		国際私法	アメリカ思想文化論		国際私法
3	ヨーロッパ・地中海文化史	21世紀サウンドアート	国際紛争解決法		専門演習
4					
5					

PICK UP SEMINAR 釜谷 真史ゼミナール

ディベートや模擬裁判で表現力を身に付ける。

ゼミでは、国際結婚や国際取引などの私人間の国際的問題について、2年次ではアメリカ代理母出産や子の奪い合いに関するハーグ条約等、1つのテーマにじっくり取り組みながら国内法と外国法の交錯する場面を体感します。3年次ではその解決方法について、国際的知的財産紛争、国際取引紛争、国際離婚・養子縁組紛争などの幅広いテーマについてディベートや模擬裁判の形で取組み、4年次では集大成としてゼミ論文を執筆します。重点を置くのは「表現力」。ゼミ生たちは和気あいあい、かつ切磋琢磨する雰囲気の中で力を付け、卒業生も法曹、金融(証券・銀行・保険)、企業法務部、公務員と幅広く活躍しています。



■ 主なゼミテーマ

- 現代国際法の諸問題の研究
- 国際私法判例研究
- 現代国際社会における法の機能
- 実証的政治分析の応用
- 国際取引法判例研究(ゼミ論)
- 地域における政治・ライブラリーとフィールドをつなぐ
- 国際法